

本論は、1990年代から欧米を中心に関心が高まりつつあるケアに関する現金給付制度に焦点をあて、現金給付制度に関する動向や議論などを整理・検討し、それがわが国の今後の現金給付制度の議論にどのような課題や分析視点をもたらすのか、その検討を試みた論文である。

わが国では、介護保険制度導入時に家族手当などの現金給付の可能性についても議論されてきたが、現在は、それほど大きな議論となっているとは言えない。しかし、筆者が指摘しているように、欧米の最近の動向を踏まえると、わが国でも今後、現金給付制度に関する議論が再び巻き起こる可能性はある。本論は、今後の現金給付制度導入の可能性を検討する際に必要な基礎的知識を提供するものであり、この点では評価に値する。また、ケアに関する現金給付制度についての海外での研究動向は、わが国でそれほど多く紹介されてはおらず、この点でもオリジナリティがあり、興味深いものとなっている。

研究方法としては、文献研究を用いている。筆者は、主として欧米におけるケアの現金給付制度研究に関する文献をいくつかレビューし、現金給付制度の動向、現金給付制度に関する議論登場の背景、本議論にみられる新しい展開、の3つの視点からまとめている。それらの先行研究を十分に読みこなし、いくつかの枠組みをもって整理・検討している研究手法については、評価することができる。また、注や引用についても問題はない。

ただし、講評者が本論をレビューする中で、今後検討が必要だと思われる箇所がいくつか見られたので、以下の通り、指摘しておく。

まず、最初に、ケアに関する現金等給付制度については、わが国でも介護保険制度導入時に検討されたが、結果的には導入されなかった。その背景には、現金給付制度に様々なマイナス面があるからである。筆者は、わが国において現金給付制度の議論を進めるために、シティズンシップと権利保障という視点を提示しているだけであり、わが国の現金給付制度のマイナス面の議論に関する検討を行っていない。わが国でケアに関する現金給付制度の導入を議論する際には、マイナス面の検討は避けて通れないであろう。なお、本論では、欧米における現金給付制度のマイナス面の議論を一部紹介するにとどまっており、それらのマイナス面に対する考察も十分に加えられていないことも指摘しておく。

第2に、福祉ミックスに登場する部門について、pjlのモデルを参考にして「流動化する役割」を試案として提示しているが、折角の試案であるので、もう少し詳しい説明がほしかったところである。さらに明確な図式化も含め、今後、検討してもらいたい。

第3に、まとめと今後の課題では、わが国での議論を進めるために必要な視点を提示しているが、欧米における議論から生まれてきた概念を、そのまま提示しているだけという感が歪めず、もう少し踏み込んだ検討があれば良かった。わが国と欧米とは現金給付制度に関する議論の背景、つまり人びとの生活や意識、文化や習慣、制度・政策は異なるわけで、それらを踏まえた上で、例えば、介護保険制度における現金給付制度を今後どうとらえることができるかなど、わが国での議論分析に必要な具体的な視点を提示する必要があった。講評者としては、この部分に少し物足りなさを感じた。この点については、今後の検討課題としてもらいたい。